

# 猿新聞

編集責任者  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp  
名張鳥獣害問題連絡会  
発行部数  
【全戸回覧】  
錦生地区：100部  
赤目地区：150部  
箕曲地区：70部  
ひなち地区：60部  
つつじが丘：430部  
【全戸配布】  
国津地区：380部  
市民センター：90部  
(10地区)  
名張市議会：20部  
名張市役所：20部

## 農地荒廃と獣害 今後の対策

耕作放棄などに伴う農地の荒廃は、生産力の減退は無論のこと、有害鳥獣の隠れ家ともなり、これまで人と野生動物とが互いに棲み分け、共存してきた境界線があいまいになり、鳥獣害を助長するなど多くの問題を引き起こしています。

集落の周辺に農地があり、さらに外側に山地がある構造は、人間と野生動物のテリトリーにおける緩衝地帯として存在してきたのです。

が、耕作放棄地増加に伴い、緩衝地帯としての機能はおろか、野生動物の生息地になっていくありさまであります。

中山間地域の農地は、人間の活動範囲の中に存在していて、野生動物の侵入に一定の役割を果たしており、鳥類・シカ・イノシシ・サルなどによる作物被害は避けられないとしても、集落への被害は食い止めます。だが、近年イノシシやクマのように



広がる農地の荒廃  
名張市矢川にて撮影

凶暴性を持つ動物が、市街地に現れてニュースになるケースが、急増してきたように感じます。

田圃が放棄され、そこに水が溜まっているような所ではイノシシの「又タ場」（写真参照）として利用されます。※（又タ場とは、イノシシやシカなどの動物が、体に付いているタニなどの寄生虫や汚れを落とすために泥を浴びる場所のこと）。



放棄地が「又タ場」に…  
名張市矢川にて撮影

また、荒廃した畑には草が生い茂り、野生鳥獣の「巣」や隠れ場所として利用されます。放棄された農地には雑草や低木が生え、それを狙って不特定多数の鳥獣が集中します。それらの鳥獣は、やがて周辺の農地の作物も食べるようになり、被害面積の拡大につながります。このように耕作放棄地の拡大が獣害を助長しているのです。

また、耕作放棄地は、放棄された土地よりもむしろ周辺の土地に影響が及んでしまうことに問題があります。

耕作放棄地からは無数に雑草の種や害虫が飛散して、周辺の農地

へ大きな悪影響をもたらしています。

加えて、農地の荒廃により、農地の持つ多面的機能が失われます。例えば、水田は雨水を一時的に貯水し、洪水や土砂崩れを防いだり、多様な生きものを育むなど大きな役割を果たしており、その恵みは都市住民を含めて国民全体に及んでいます。

鳥獣被害を減らす、もしくはこれ以上増やさないためには耕作放棄地を減らすということが不可欠です。

耕作放棄地拡大の原因を考えてみましょう。まず、1970年から始まった減反政策が要因の一つとして考え

られています。

だが、いま中山間地域での耕作放棄地問題は、いたって深刻で耕作したくても耕作できないというのが現状。貴重な農地資源がありながら「作りたくても、作れない」状況から生まれる耕作放棄地は、いたって深刻な問題をばらんでいます。

そもそも農業自体が儲からない体力仕事であることが、若者の農業離れに大きく影響し、山間地域では過疎・高齢化が一段とすすみ、農業の担い手ばかりではなく住民そのものがいなくなり、耕作放棄地の拡大の深刻化は増すばかりです。

現在では耕作放棄地の拡大が獣害拡大につながり、獣害拡大が放棄地拡大につながるという悪循環になっています。

一旦、荒廃した圃場の復元は非常に困難で原野化につながります。政府は、農地として税制上優遇されている耕作放棄地に対する固定資産税を現行の約2倍に引き上げ耕作放棄地解消につなげようとしています。果たして、そんなことで耕作放棄地問題は解消できるのでしょうか。

※（農地には適切管理義務が課せられ、引き換えに固定資産税が割安優遇されている）。

年々、農業に就く人の数は減り、就業者の約6割が65歳以上です。今後も高齢化はすすみます。農業従事者は減少するとみられます。耕作放棄地は増え続け滋賀県の面積39万6千畝を優に超えたといわれています。

食料自給率低下にもつながる耕作放棄地増加問題。根底には根深いものがありますが、地域を挙げて耕作放棄地解消をめざして、早急に放棄地の再生に取り組む、また、農家は耕作しないとしても恒久的な保全管理に徹しなければ、この問題の解決はありません。

## 獣害対策 農林資源室に聞く

名張鳥獣害問題連絡会

名張市農林資源室は、名張市農林資源室に対し獣害対策について懇談会を要請した。農林資源室は多忙にもかかわらず応諾され、2月5日開催の運びとなった。

名張鳥獣害問題連絡会からは、

田村修市（会長）  
北川裕之（県議）  
田北利治（市議）  
山田泰次（矢川区長）  
伊藤傳一 木戸康弘  
古川高志 畠山ひさ子  
山村準（順不同）

市側からは、杉本一徳（産業部長）吉岡昌行（農林資源室室長）始め獣害対策関係者が出席。

Q 鳥獣害害に対する直近3カ年の予算と歳出について

A 29年度の推進事業（体制整備・個体数調整・被害防除・生育環境管理・サル複合対策）の予算額は、6,663千円となっており、現在事業の推進中。

直近3カ年の予算推移

26年度7,200千円  
27年度7,300千円  
28年度6,588千円  
29年度6,663千円

Q 地域住民に対しての獣害学習会や研修会の開催及び、県が行う研修会の住民への周知

について

A 名張市主催の研修会は、ここ3年間毎年開催している。今年度も平成30年2月28日に名張A・B群の行動域内の集落代表者等を対象に、追い払い方法や環境整備についての研修会を開催する予定。

県が実施の研修会については集落代表者等を対象に周知している。

Q 市街地での生活環境被害が増加しているが、その対策は

A サルの行動域内では農村集落に限らず、つつじが丘といった住宅地においても生活環境被害が発生している。環境整備や追い払いの徹底を地域にお願いしている。必要に応じて捕獲も行っている。近年シカ、イノシシの市街地への出没が発生している。名張市では、平成29年10月に獣種や出没場所による対応区分や連絡体制、関係機関の役割分担等を定めた全てに対応出来るマニュアルを策定しており、有事の際には迅速な対応ができるよう体制整備を行っている。

Q シカ・イノシシ肉の利用については、

A 獣肉の利活用には、



懇談会風景

# 駆除個体の有効活用

近年、全国各地でイノシシやシカなどの野生動物が急増して、生息域が広がり広い範囲で被害が深刻化しています。

なかでもシカは最近僅か20年間で9倍にも急増したともいわれています。

近年、狩猟規制が緩和され、年間何十万頭ものシカやイノシシなどが駆除されています。

いま、この駆除個体の処理が問題となっています。

地域資源として活用か、また、焼却もしくは埋設処理かなど各論があります。

今後、有害捕獲数の増加が見込まれ、被害対策経費の軽減を図るためにも捕獲個体の有効活用が求められています。

年間何十万頭ものシカやイノシシの捕獲個体の大部分は埋設や焼却処分されていて、食肉として利用されるのは、ホンノウズか、そのうちでも殆どが、狩猟者が捕獲現場で解体し、自己消費。

山中での埋設処理は大変な労力が必要で僅かな報奨金では割が合わないとい嘆く狩師。

国は、「駆除個体を活用すれば、被害額を減らし農村の所得も向上できる。人材育成や関係者の連携強化に必要な対策を国が講ずると規定した」と、いつています。

命を無駄にしないた

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

「サル団子」の話

冬の風物詩としてしばしば報道される「サル団子」。ニホンザルは体温保持の方法として晴れた日の「ひなたぼっこ」以外に、冬の寒い日にダンゴ状態となり、サル団子を形成する。サル団子がよくみられるのは、曇りの日は最高気温が2、5℃以下の場合であり、晴れた日では1、5℃以下の場合である。サル団子の形成の仕方は、サルの腹と別のサルの背中をあわせるもの、

## 名張B群移動状況 平成30年1/21～平成30年2/20

### 指導員報告

1月下旬は西谷周辺に集中。  
2月に入り三本松周辺に移動し、周辺の山中を小刻みに移動している。

### 編集局より

個体数が少ない群は消滅しやすい傾向にあるといわれています。  
B群の動きをA群と比較すると異常な感じさえします。  
先般行われた大量捕獲が影響して

いるのではないのでしょうか。  
サルの個体調整とは、その個体群の存続を保全しながら人との軋轢の最小化を図ることであり、個体群の実状や被害状況により、地域住民の問題の捉え方も千差万別ですが、サルと人とのせめぎ合いの中でどのように、折り合いをつけるかということが問題で、今後の大きな課題です。



## 名張A群移動状況 平成30年1/21～平成30年2/20

### 指導員報告

1月下旬は、青蓮寺湖周辺での目視や受信が多かった。  
2月初旬は、長瀬周辺での目視や受信が多かった。  
2月中旬では、比奈知湖から長瀬方面での目視や受信が多かった。  
日当たりの良い法面での目視が多く、今年の寒さがサルにとって大きく影響しているように思われる。

### 編集局より

今年の冬は異常な寒さが続きましたが、A群の移動状況は、善し悪しかかわらず、昔と同じような動きをしています。

(移動図参照)

